

特集

経営者の仕事とは

有限会社アクティブ経営研究所
所長 鑄方 貞了

どんなに利益の出ない会社でも、有能な経営者に交代すればみるみるうちに会社は蘇ります。良い会社や悪い会社があるのではなく、良い経営者と悪い経営者があるのだと思います。「経営者そのものが会社である」といえます。

経営者と幹部が一体となって協力し真面目に経営に取り組めば、かなりの困難にあっても克服できると思います。しかし、経営者の姿勢が会社にとって大きなマイナスになっている事がときにあります。その原因が自分にあるということに気付かず、部下を責めまくるところに悲劇の根源があります。このような会社は幹部もやる気がなく、幹部の能力不足も多々見受けられます。

経営者に問題があり、幹部もやる気がなくその上に能力不足の会社では、社員の意識は極めて低いのが普通です。ですから、利益の出ない会社は、まず経営者自身が反省して、自分の姿勢を正しく変えることが望まれます。

会社は経営者以上の器になることはない

経営者が本来すべき仕事をきちんと行っている会社ほど、元気のいい「黒字会社」として成功しているのです。

経営者が本来すべき仕事について、以下に重要と思われることの一部を紹介します。



経営者の仕事

1. 事業を經營すること
2. 経営者とは決定する人
3. 利益の出る仕組みを作り続けること
4. 経営理念他・経営計画を作りそれを徹底させ続けていくこと
5. より良い方向へ変化し続けていくこと
6. 色々な問題や課題を乗り越え続けていくこと
7. 仕事を通して社員を成長させ、会社を発展強くし続けていくこと
8. 銀行対策は経営者がすること、そしてハンコは自分で押すこと
9. 社員には最高の満足を、お客様には最大の信頼を得るために努力し続けること
10. 良いブレインを持つこと
11. 健康に気をつけ、人格向上を図り、人間的魅力を身につけること

1 事業を經營すること

(1) 事業經營の本質は、

- ①世の中に役立つ商品又はサービスを提供し、喜んでもらうこと
- ②お客様に喜んで頂いてお金を頂くこと
- ③頂いたお金で、社員の給料や諸経費を払い、残ったお金で、税金を払い、次の投資に向けることだと思えます。

**事業經營の本質は、「社会貢献」と「収益」にあり、
会社の内部を管理することではありません**

事業を經營し続けるには、市場における競争に打ち勝っていかなければなりません。その為には、市場の觀察をして、その動向に常に大きな